

印刷とITの有効利用を考えるアイデア情報誌

No.33

MAY2004

Idea virus

アイデアウイルス

IDEA

IRUS

Contents

商売繁盛の秘訣

もうかる店頭プロモーション

「ライブ販売」に成功する秘訣とアイデア p.1

実力店の突撃取材

カテゴリーテナント導入で競争力向上

赤字店舗が繁盛スーパーに

「ユア・ズ生鮮旬市場」(広島県) p.3

繁盛店の裏側

専門特化することで顧客を全国に広げる

『私の靴 MOTOYOSHI』

(靴専門店 / 東京・豊島区) p.5

主婦マーケティング

売場と主婦の恋愛関係《シリーズ第三回》

消費現場の95%に主婦がいる!

主婦はみんな疲れている。

誰か(何か)に癒されたいのだ。 p.7

売場と主婦の恋愛関係

主婦マーケティングとは市場(女)と企業(男)のロマンである。このコーナーでは、毎回当社が集めた主婦データをもとに様々な消費者のシーンや生活者のホンネを読み取り、売場と主婦の恋愛関係を探る。

《シリーズ 第三回》

消費現場の95%に主婦がいる！
主婦はみんな疲れている。誰か(何か)に癒されたいのだ。

主婦データ

物件名: 主婦の疲れ・癒しについて
サンプル数: 391名
実施期間: 2003.10.01 ~ 2003.10.13

男と女の疲れ方の違い

全国の主婦を対象に「疲れに関するアンケート」を実施した。普段の生活で「心・精神に疲れを感じているか」との問いに、「たまに疲れる」と答えた主婦が40%、「頻繁に・常に疲れる」と答えた主婦は54%もいた。主婦はみんな疲れているのだ。

そりゃそうだ、今どきの有職主婦の割合はとつと5割を越え、仕事をかかえながら家事、育児、学校、地域のゴミ当番、親の介護までこなしている。肉体的、精神的な疲れが幅広く主婦の肩にのしかかる。

男の疲れの多くが「仕事」というひとつのくりに限定されるのに比べ、主婦の疲れは様々なくりに横断的にまたがっており、肉体的にも精神的にも実に複合的である。

身体的な疲れと精神的な疲れに主婦は いくら使うのか?

調査では「心・精神的な疲れ」と「身体的な疲れ」について聞いてみた。すると、肉体的な疲れを感じる主婦は約半数の49%だが、精神的な疲れを感じる主婦は94%と断然ポイントが高くなる。

そこで身体的・精神的な疲れを解消するために利用する商品やサービスに、それぞれいくら支払っているかを聞いたところ、身体的疲れには「利用しない16%」「1000円以下42%」「5000円以内35%」「1万円以内5%」「いくらでも2%」という回答だった。一方、

心・精神的な疲れには、「利用しない29%」「1000円以下26%」「5000円以内31%」「1万円以内7%」「いくらでも7%」と答えた。

ざっくりと主婦感覚で言うと、肌、目、肩、腰など身体的な疲れの解消には手軽に買える1000円以内の入浴剤や湿布。さらに疲れの度合いにより3000円以内のサプリメントや健康促進グッズなどを利用し、それでも改善されないときには整体院や鍼灸院、病院を利用する。

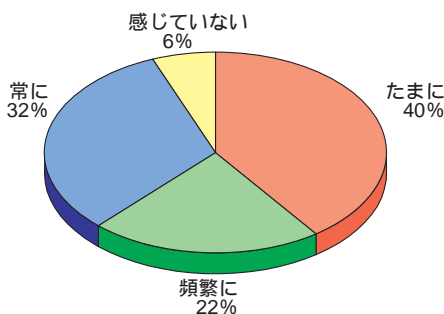
一方、心、精神的な疲れの解消のために主婦が具体的に実行するモノゴトには個人差があり、単純に金額ベースではかるべきではない。主婦一人ひとりの生活環境、その日の気分やTPOにぴったりと合い、「それで癒される」「解消できる」とジャッジすれば、金額にかかわらず利用するということだ。

《主婦の自由記入から》

Q: 具体的に心・精神的な疲れをどう解消したいと思うか?

- * 沢山買い物をして沢山旅行に行ってゆっくり温泉につかりたいです。
- * 育児を離れて一人ゆったりと一日を過ごしてみたいです。
- * 好きな雑貨の本を見たり、ゆっくりとコーヒーなど飲みながら、好きな音楽を聴いたり、本を読む。とにかくゆっくりとするのが一番と思う。
- * 現実から離れるのが一番いいのではと思う。
- * アロマオイルマッサージがしたい
- * 普段はやらないネイルを、贅沢にネイルサロンでやってもらう。あと、占いをも有名名人に(ここがポイント)見てもらって、悩みを相談する。
- * ピブセラピーやオーラソーマなどのセラピーを試してみたい。友達が行ってみてとてもよかったといっていたので。
- * エステに通うと癒されるような気がする。美容院へ行ってカットしてもらったりするとリフレッシュする。今はないけれど、ハムスターが好きでまた飼いたいと思っている。英会話に通ったりすると友達が増えて気分転換になる。

Q: 普段の生活の中で心・精神にどのように疲れを感じていますか?



主婦の疲れで売れるモノゴト

それでも家計を預かる主婦は、身体的、精神的な疲れを解消、癒すために、手頃な金額の、それでいてそれなりの満足感のあるモノゴトを日常的に利用し、実践している。

普段は手を出さないちょっと贅沢なデザート、身体に良さそうな食品、お酒を飲む、リラックスするためのハーブティーなどの飲み物、化粧品やアロマグッズ、健康促進のグッズ、友人とのお茶飲み、会食、近場のスーパー銭湯、気分転換に家中の掃除……。こんな解消法をもつ主婦もいれば、さっさと街へウィンドウショッピングに出かける主婦もいる。

主婦が疲れを解消する方法は実にさまざま。そう考えると、多様な業種、業界にビジネスチャンスがあるとらえるべきだ。

《主婦の自由記入から》

Q:「自分流こんな解消法」を教えてください。

- *入浴剤と石鹸を色々揃えて、その時の気分で使う物を決めています。好きな香りに包まれ、ポ〜とお風呂に入っていると気持ちが楽になるような気がします。
- *今ハーブティーにはまっています。ローズヒップティーやマテ茶やカモミールなど、その日の気分に合わせてセレクトして楽しんでいます。
- *夫がいるときは、子供が寝てから近くの銭湯に出かけます。打たせ湯や電気風呂があり、肩から腰にかけての痛みも和らぎます。銭湯内にある整体を受けて、全身リフレッシュします。その銭湯では、ミストサウナ内でアロマをたいているので、心身ともにかなりリラックスできます。

- *フットマッサージ器。文句を言わずいつまでもマッサージしてくれるがうれしい
- *カラオケに行っても思いっきり歌って、気分をすっきりさせる。

「疲れの解消」と「癒されたい」の親密関係

疲れをとる、解消、改善する。これはどちらかと言えば男的で合理的な考え方だ。

もちろん女だって単純に疲れをとりたい、解消したいと思うことはある。しかし、主婦の疲れの解消法についての声には「癒される」という言葉が実にたくさん登場する。主婦(女)はすごく幅広く感覚的な解消法として「癒されたい」を求めている。

ひと頃前から、この「癒し」は様々な業界でキーワードだと言われているが、主婦(女たち)の「癒されたい」という感覚を本当にわかっている売り手側(企業)は少ない。男性的感覚でいう、自ら主体的に癒すのではない。女の「癒されたい」気持ちには、「誰かに」「何かに」癒されちゃう受動的なニュアンスがある。商品(モノ)でもサービス(コト)でも、その背景に癒してくれる「誰か」や「何か」を感じることができるかどうか、が消費の大きなポイントだ。 ▶▶▶▶

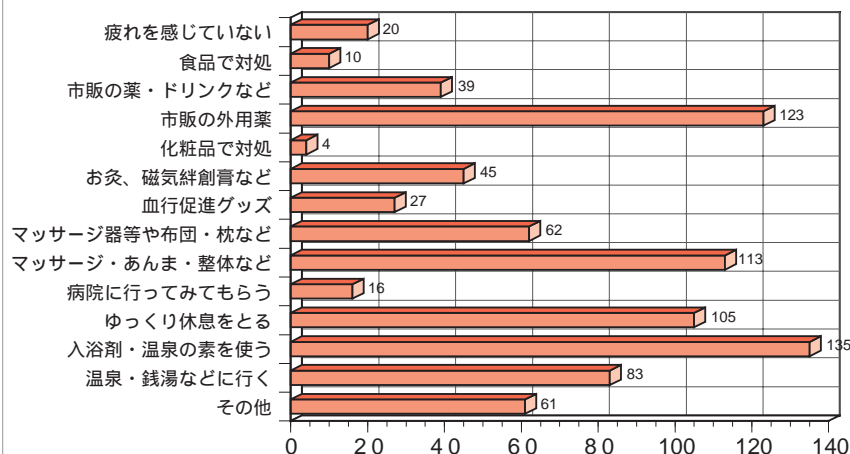
《まとめ》

働く主婦は、肉体的にも精神的にも疲れを溜めている。
主婦の疲労解消法は実にさまざまで、多業種・多業界にビジネスチャンスがある。
「誰か(何か)に癒される」という感覚が消費の大きなポイント。

香川 いくみ

(株)CBTカブトプレートラト代表取締役 社長

Q: 肩に疲れを感じた時の対処法は?



参照サイト

- ・データ引用: 主婦データワークショップ
<http://scho-bank.ne.jp/worksop/>
- ・(株)CBTカブトプレートラト
<http://www.caput.co.jp/>